

「マニフェストを無視しても詐欺罪には問われないの？」

平成 25 年 11 月 19 日

● 齊藤一也さんからの質問

政党が掲げるマニフェスト、これが守られているのを全く見かけないのですがアレは詐欺罪には問われないのですか？また掲げたマニフェストと言うのは、全うできないことになんのペナルティも無いというのはおかしいと思うのですが、西田先生はどうお考えでしょうか？このままでは選挙の際、政党のマニフェストというものがなんの目安にもならないので困ります。駄文失礼いたしました。

● 西田昌司の答え

マニフェスト選挙自体が詐欺そのものであります。

選挙時に政党・立候補者が数値・期限・工程を具体的に示して、それを有権者に選んでもらうというマニフェスト選挙が流行り、マニフェストに耳触りのよい政策を並べ立てた民主党が政権をとりました。「政治家は政策で選ぶべき」という考えの下、マニフェストを示すことがあたかも政治家の本気度・真剣度を表すかのごとき風潮が広まった挙げ句の果ての政権交代劇でありましたが、私は「マニフェスト政治は出鱈目である」と言い続けています。

民主党は「コンクリートから人へ」というマニフェストを掲げて、公共事業が無駄だと決めつけていましたが、彼らが政権をとると実際に公共事業費を削減してしまい、デフレを加速させて日本経済をどん底に落とす結果となりました。さすがの彼らも途中で誤りに気付きましたが、あのままずっとマニフェスト通りに実行していたらさらにまずいことになっていました。この例でわかるように、間違ったマニフェストは実現してはいけないのであり、

マニフェストを実現しなければ詐欺、というのは短絡的な考えです。

このように言うと、「では、最初から正しいマニフェストを書けばいいではないか」という反論があるでしょうが、それが無理な話なのです。なぜなら、政治の世界においては一寸先は闇であり、何が起こるかわからないからです。マニフェストを書いた時点では最良のものであったとしても、当初は全く予想もつかなかったようないろいろな事が起こりますし、最初から全てを見通すことなどできる訳がありません。書いたことでも状況によってはやってはいけないし、また、状況に応じて内容を修正していかなければなりません。「マニフェストは有権者との約束だろ？マニフェストに書いたことは最後まできちんとやり通せ」などと叫ぶのは非常に子供じみています。

私は自民党内でマニフェスト選挙を批判してきましたが、最近、党内では「マニフェスト」という言葉は使われなくなってきており、代わりに「政権公約」といった穏やかな言葉に変わってきました。自民党には何百人もの国会議員がいますし、各自がいろいろな考えを持っていますが、それらの考えは（余程変わった考えでない限りは）政権公約に盛り込まれます。自民党の政権公約を見ると非常に多くの（時には相反する）政策が載っているのは、こういった理由からです。

新たな政策を掲げたり、法律を作るのは議員の仕事です。同じような政策を掲げる議員が議連を作ったり、部会で話がまとまってきたら議員立法を行ったり、政府が様々な政策を提案して法律案を国会に提出したりします。このように建設的に前に進んで行くのももちろん大事なことでありますが、それと同時に、その政策・法律により社会がおかしくなってしまうのか、と考えるバランス感覚が絶対に必要です。

ある状況下では正しい政策・法律が、他の状況下では別の問題を引き起こすことだって当然あります。前に進むだけではなく、時には立ち止まることも必要ですし、これまでを振り返って大局を見た判断もせねばなりません。しかし、公共事業等において一度決まった計画が、やってはいけない状況に

なってもなかなか止められずに前に進んでいってしまうのはよく耳にする話です。

「グレートリセット」などと勇ましく叫ぶ政治家が、有権者の目に格好よく映り耳目を集めてしまう現実があります。猪突猛進に前に進む様は一見勇ましく見られるのですが、マニフェスト政治はそのような心理を利用した単に人気取りの政治でしかなく、全体を見ずに誤った方向に突き進む危険に満ちています。一方、保守政党たる自民党には徹底的に議論をする風土があり、前に進もうとする議員と、踏みとどまらせようとする議員が徹底的に議論をするのですが、議論をする中で問題の本質がだんだんと見えてくるのです。

結局、マニフェスト選挙が詐欺そのものでありますし、選挙の際にマニフェストの発表会をするような政党・候補者は胡散臭い、と有権者は警戒すべきです。選挙の際に候補者は「政策」ではなく「人格」を示すべきであり、「いかなる事態になっても、この人ならまずは正しい判断をしてくれるだろう」と思える候補者に投票するのが選挙だ、という本質に気付かなければなりません。

今の日本の政治の乱れは、自分達の国の歴史的なつながりというものを全く失い、目先のことだけに追われてしまうことを改革と称して、ずっと歴史破壊を行ってきたことに起因するのです。これに気付くことが、本当の意味で政治を取り戻して日本を救い出す一番の原点になるのだと思いますし、そういった認識を持つしっかりとした人物が選挙において選ばれるべきなのです。

反訳：ウッキーさん

Copyright：週刊西田 <http://www.shukannishida.jp>